

本時のねらい

・人によって気持ちの温度や感じ方には違いがあることを知り、相手の考えや気持ちに気付くことができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・共有ノートを活用し、共同で活動を行うことで、友だちの考えがリアルタイムで反映され、自分の気持ちとの違いが分かりやすくなることをねらいとした。
・ロイロノートでシンキングツール（座標軸チャート）を活用することで、思考を支えるだけでなく、何度も気持ちのカードを置き直すことができる。そうすることで、より自分の思いと向き合いながら、活動が行えることをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・プロジェクター ・授業支援ソフト（ロイロノート）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの復習を行う。 ・気持ちも温度と同じように上がったり下がったりすることや、不安や安心の気持ちがあることを確認する。 ○学習課題をつかむ。 「気持ちの温度を考え、交流しよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習で用いたシートをプロジェクターで投影し、振り返る。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちのカードを見て、安心の度合いと気持ちの温度を考える。【写真1】 ・座標軸チャートの中で「幸せ」のカードを自分の気持ちに合うところに動かす。 ○カードを置いた位置とその理由について、班で交流する。【写真2】 ○全体で発表する。【写真3】 (違うカードを用いてもう一度行う。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・座標軸チャートにあらかじめカードと、気持ちの温度や安心の度合いについての視点を加えておく。 ・班ごとに共有ノートを活用して活動させることで、同じ班の友だちのカードの動きをリアルタイムで見られるようにする。 ・気持ちのカードに色分けした枠を付けることで、自分と友達のカードを区別しやすくなるようにする。 ・共有ノートでカードを見ながら交流させる。 ・班の代表児童に提出させ、各班のカードをプロジェクターで投影して発表させる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りを行う。 ・班での交流や自分で考えた活動から、気付いたことや思ったことを書く ○振り返りを全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動で使用したチャートなどを見返しながら振り返りシートに記入する。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：気持ちのカードを見て、安心の度合いと気持ちの温度を考える場面



写真2：カードを置いた位置とその理由について、班で交流する場面



写真3：全体で発表する場面

児童生徒の反応や変容

・座標軸チャートを活用することで、自分の気持ちと向き合い、より深く考えることができていた。また、友だちの考えがリアルタイムで反映されることにより、友だちが自分の気持ちと向き合う過程を見ることができたため様々な違いに気付くことにもつながった。そして、チャートや共有ノートを活用することで考えを発表する際に気持ちの度合いを視覚的に伝えることができ、発表が苦手な児童の手助けにもなっていた。
・振り返りでは、本時のねらいとして位置づけた、気持ちの違いを知ることや、相手の気持ちを考えることについて書くことができた児童が多かった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

共有ノートを使う上で、「自分以外の児童のカードを触らない」ことを意識させる必要があったが、カードの色分けを行うことで、間違っただけで触ってしまうことも少なくなった。また、色分けを行ったことで「青色の人が提出箱に提出をする。」といったような指示を出せることにつながった。

共有ノートを活用して、班で同じチャートに考えを表したことにより、友だちが動かしている様子を見ることができ、操作の仕方に戸惑うことがなくなった。また、友だちが置いた場所を見ることができるので、自分と友だちの共通するところや違うところに注目して交流することができていた。